

農民の健康会議とその意義

富山県農村医学研究会

会長 豊 田 文 一

健康であることは、あらゆるものに先がけてあげられる幸福であります。数年前東京都は生活構造講査を行いました。都内に住む成人男女の58.3%は自分達の生活のめあてとして「家族そろって健康に暮らしたい」ことをあげています。この調査にみられる傾向は、恐らく国民の多くの人々が願うことで、私どもの生活のなかで家族ぐるみの健康を先ず考えるでありましょう。身体に何らの異常もなく、何を食べてもおいしく、思う存分働くことができ、夜はぐっすり眠れ、朝眼がさめれば自ら仕事への熱情がわき、休日にはそれぞれの趣味を楽しむことができれば、これ程幸福なことはありません。

しかし健康な人々は、その有難さを十分自覚していません。もし一度病気になると、その有難さを知ります。健康でさえあれば何もいらぬという気持は、永い間病床に臥すもものの等しく体験する所であります。

私どもは農村の人々の健康管理を進めてきました。これは第二次大戦の悲惨な終結により、国民の生活が疲へいし、栄養の低下、乳幼児、青年の発育の遅れ、急性慢性の疾患がはびこり、国民の平均寿命も短縮しました。この惨禍は都市農村の区別なく全国をおそいました。ことに食糧や住宅の不足は大都市で一層きびしいものでした。しかしその後の復興とともに社会保障や公衆衛生の向上、経済上昇への努力は、国民生活の安定をもたらしてきたわけです。このような動きが進みますと、都市の富が増大し、健康を守るべき医療、

保健サービスは都市に集中し、農村は依然として国民の食糧基地に止まり、その健康度も漸次劣悪になってきました。この憂うべき農民保健の状態は黙視すべきものではなく、私ども心ある人々が、農民の健康を守るために立ち上がったのは日本農村医学会であります。それで農民の健康を考える上で指摘したのは、

1. 農民が農業に従事し、農業独特な作業を独特の環境条件下に行わなければならない事情。

2. 野外作業から離れて自宅に帰り、食事をとり、直接農作業とは関係がないが、農業従事者の世帯の一員ということで、衣食住など家庭生活諸条件の規制をうける。農家世帯に属する幼少児や老令者らは、直接農作業に従事することがなくても、農家の一員という事実によって、農家に特徴的な食住生活を営み、特異な健康上の特徴を示す。

3. 農、非農の区別なく、等しく農村に居住していることによって、農村環境衛生の立ち遅れ、有害動物、農薬などによる危険、古い因襲、医療保健施設、社会文化施設などの不備、交通の不利条件下におかれ、これによって都市衣住者とは違った健康上の特徴を示す。

以上の事柄は、その当時の農村の実態をみつめ、調査研究の対象となったわけでありす。

この20数年前の様相は、わが国の全面的工業化によって漸次変貌をきたし、それが農村の都市化をもたらしていることは事実であり

ます。すなわち農業、農家、農民と一連の積みあげた連らなりの絆が現在たち切られた傾向にあり、外見上はその面影は消え去ったかのように見られます。しかし食糧が化学合成、されない限り、食糧基地としての農村、農家、農民は消滅しないものでしょう。また農業というものの特色は生業、あるいは家業という言葉で代表されている通り、生産と同時に生活様式でもありました。ところが現在の農業構造の変革は、農業関連産業と称せられるように、肥料を中心とする化学工業、農業機械による耕耘、その他の農作業の工場化、ヘリコプターや飛行機による農薬散布は大企業によらねばならないし、一貫機械化体系が確立すれば、まさに企業ともいえますし、旧来の農業からいえば大企業の農業浸蝕とも考えられます。

このような展望にたつても、私は土がある限り、農業は農家、農民の手から離れないものと考えます。そのことは私どもの数年間の調査成績はそれを教えてくれます。潜在性疾病、農夫症、ハウス病、農村婦人の貧血の問題も、都市と農村隔差の特殊性を現わしておりますし、脳血管障害、心臓病、悪性腫瘍にしても地域環境の特殊性を教えております。特異なものとして農業機械による災害、ないしは健康障害、出かせぎによる社会医学的追及も、私どもの手でなくては到底説明することのできないものであります。数えればきりがありませんが、私どもは農民の健康管理について、その成果をあげつつあります。

私どもは、今述べましたように、農民の健康管理に微力を尽してきましたが、本当の意味で農村の人々との連帯を強めるために考慮し、かねて農民の健康会議を企画して参りました。

機熟し、去る2月26日、27日の両日にわたり、井波町、婦中町でその開催の運びになりました。県中央会、県厚生連、地元農協の共

催をえまして、両日共多数の農村の皆さん方の参集をえて、熱心な討議に終始しました。その主題は「栄養と健康」であり、講師による話を聞くだけでなく、成人病を中心として、例えば私どもの調査しました貧血、糖尿病、高血圧など生のままの成績を基礎として、皆さんと話し合いました。かねて農村生活のうちに持つておられる意見、それに対する対応、膝をつき合せて、問題毎に分科会方式をとって納得のゆくまで話し合う機会を得、私ども自身も農民の健康管理に多くの示唆を与えられたことは幸でした。

さてここで健康会議に関連して私の感想を述べさせていただきます。それは情報という言葉です。よくマスコミで情報化社会とか、情報過多とかいう記事がみられます。これは戦後の通信網の発達、あるいはその拡がり方や、伝わり方とともに世の中の変化をすみやかにになって、私どもの耳や眼から入ってくるわけです。しかもその効果は、それぞれの人達の意志をきめるのに必要なものですが、これをいい方にとるか、悪い方にとるか、それぞれの人々の選択、判断に委ねられます。この健康会議も情報化時代の一つの現われでありまして、このことは、また私どもの健康を守るために重要な役割をもっていると考えます。しかもこの情報が、いくら多くても、その人の意志決定に影響を及ぼさないものであれば雑音にすぎません。雑音が甚しくなれば騒音ともいえましょう。よくいわれる情報公害ということも騒音公害に相通ずると考えてもいいでしょう。

私は先般の健康会議に出席し、皆さん方と話し合える機会をもちました。富山県としては最初のことでしたが、皆さん方の御理解とともに、これからも農民の健康を守るため、なすべき仕事の多いことを痛感しました。

ここに御尽力されました関係の皆さん方に厚く御礼申し上げます。